

令和4年度人と自然の博物館協議会協議概要

日時：令和5年2月28日 14:00～15:30

場所：県立人と自然の博物館 大セミナー室

議長）令和4年度の活動内容等について説明をお願いしたい。

－令和4年度ひとはくの活動内容、中期目標の達成状況、アウトリーチ活動について報告－

議長）ただ今、令和4年度の活動内容等について報告いただいた。

委員の皆さま、何かご質問、意見等、どなたからでも結構なのでお願いしたい。

委員）コレクションリウムのことについて意見をしたい。自己紹介でも言ったが、博物館が好きであちこち行っているが、「魅せる収蔵庫」と副タイトルが付けられていて期待していたが残念だった。例えば、鳥のはく製。たくさん並んでいるがネームプレートがない。博物館で名札がないところはほとんどない。全面名札がない。とてもわかりにくい。見にくい。

鳥の展示自体も意図がわからない。5羽ごそっと置いてあるところもあれば、気になるところで言えば、メジロなどバラバラに置いてある。なぜバラバラに置いてあるのか。こんな鳥は他にも何羽かいる。すごく残念だと。あれだけたくさんあり見せようと思えばもっといい展示ができる。

展示物そのものを「魅せる」というタイトルだから、もう少しきれいに見えるようにできないか。目の高さにもよるが見つらい。照明が悪い。例えば、中央側の一番下の棚は外光が入ってこない。上側は下からの光もこない。そこに下側のLEDライトだけが点いている。日本語でいうフットライト状態。フットライトは普通、お化け屋敷ぐらいしか使わない。少しここは残念。「魅せる」って書かれてあるが、これはどういう定義をされたのか。定義をされて、たぶん皆さん関係者で共有化して展示されているのだろうが、少し残念な結果に見える。少し改善をいただきたい。

博物館) 鳥のはく製のネームプレートについては、3.5mの天井高の7段の棚なのでネームプレートを置いても見えないので、どの場所にどの鳥がいるかというイラストのA3のパウチを手前に準備して、名前を知りたい人の要望に沿えるようにした。

「魅せる収蔵庫」と言っているので、収蔵庫らしくすごくたくさんのものを置いて、なるべく効率よく収蔵しているところを見せたいという意図があった。それと、見えているものの名前を知りたいというお客さんの意図とどう両立させるか、ということで悩んだ末のパウチ案である。

鳥のはく製の配列に関しては、小さな鳥を一番見やすい高さに置くということと、身近な三田のこのあたりでも飛んでいる鳥を目の高さに置くという、鳥標本の担当者の意図がある。

照明についても、おっしゃるとおり最後までテープライトの配置とか悩んで、一応下から3段目までは棚の上面と下面の方にテープライトを配置しているが、このあたりも研究員の創意工夫でやっており至らない点があったかも知れないので、今後対応を考えていきたい。

館長）今、ご指摘いただいた収蔵庫、たぶん、世界的にも博物館は収蔵庫を見せない。それを見せる工夫をしようと最先端の試みに取り組んでいる。本来はシャットアウトしてしまうところを、なんとか収蔵しているものを見ていただくという努力をしている。まだまだ足りないかも知れないが、日本の博物館でそのような試みをしているのは当館だけなので、その点は評価していただけたらと思っている。

委員) 確かに収蔵庫を見せてもらえるのはありがたい。しかし、見せる以上はやはり名前は出すべき。選んでいただいて前に出すものには名前を付ける。7段全部だめではなく、下から3段だけでもいいのではないか。普通に見える高さのものだけでも名札を付けるべきと思う。

あとパウチだが字が小さすぎる。通常、こういった書類の文字は3mmか3.4mm。パウチされているものが1.4mmか2mm。普通に見えない。書類の字も小さすぎて字が見えない。去年も言ったが。それはなんとかしていただきたい。

委員) 資料1の10ページに「コレクションナリウム利用者数を含む」と書かれていて、チケットを買った人もみんな入れるから人数カウントしづらいのかなと思って拝見していた。個人的には、30周年のイベント時に初めて入らせてもらって、すごく今までのひとはくにはない空間性をもっているなと感じた。私個人としては、空間の中のダイナミックさにすごく感動したことを覚えている。

そのあと、人博のSNSとかいろいろ拝見していると、これまでされていない音楽イベントをされたり、新しいスタイルというか、そういう意味では標本だけ

を見せるのではなくて、あの空間で違うものを見せてくださっていると感じながら見ている。

そういうコレクションナリウムでトライされている新しい取り組み、標本を見せることからみ出たいい意味での標本の利活用とか、空間の利活用をされているのかと思うので、今日はその報告も聞かせていただきたいと思う。来年度事業の資料を見ても、コレクションナリウムですることがうまく書かれていないのもったいないなと思ったので、ぜひお聞かせいただけたらと思う。

議長）素晴らしい施設ができているので、その活用とか、何か補足のコメントがあればお願いしたい。

博物館）昨年 10 月に開館してから、地元在住のピアニストを呼んでサイエンスカフェとかピアノ演奏、サイエンストーク、学術集会などを開催した。コレクションナリウムは公開エリアと植物収蔵庫が近いので、来年度は、植物を採ってきてそのまま植物標本を見ながら調査するようなセミナーとかを開催したいと考えている。あとサイエンスカフェとかも企画している。

博物館)すでに終了した活動ではあるが、今年度1年間、県立大学の55名の学生に参加してもらって、人博を使った地域活性化をテーマに活動してもらった。その一つとして、三田市の保健師に来てもらって、コレクションナリウムの中で健康チェックのイベントをしてみたら好評だった。

保健師に聞くと、フラワータウンの中心地なのでフラワータウンの方に集まってもらうのには非常にいい、また来させてくださいとのことだった。

駐車場は本来は土か芝になったらよかったが予算的にできなくて、真っ黒なアスファルトになってしまった。しかし、その駐車場にチョークで絵を描いて遊ぶというイベントも非常にうけた。絵を描いていると遊んでいた子どもたちが集まってきたりした。大学生の提案で、クリスマス前にクリスマスツリーを子どもたちと一緒に描いたりした。

立地もいいので、これから新しいいろいろなことができるのかと期待している。

委員)アウトリーチ事業の説明をしていただいた。キッズ事業をあまりよく理解していなかったが大変おもしろい取り組みで、たくさんされているのが素晴らしい、評価されると思う。限られた人数の中で頑張られていると思うが、質問は重点目標の主催プログラムの実施件数で、平成30年からこの5年間の中

で目標が達成されていない。この目標設定、どのようなことでこの設定になっているのか。設定値が高すぎると考えている。

プログラムの説明があまりなかったので勝手に理解しているが、特注セミナーって何か。おそらく非常にワクワクするようなセミナーだと思うが、それが原因で目標達成が難しいのではないか。そのあたりのことも含め説明をお願いしたい。

博物館）主催プログラムの実施件数の定義は、申込制の有料の一般セミナーと館内で無料で行うオープンセミナー、あと団体用のお客さんを対象とした特注セミナーの3つからできている。特注セミナーはプログラム数としては、200数十ぐらいあるが、そのメニューの中から団体のお客さんに選んでいただいて実施している。団体のお客さんによっては展示観覧だけでセミナーは必要ないというお客さんもいるが、今までのところは多くのお客さんに選んでいただいている。そういうのが主催プログラム実施件数である。

目標値の設定が高すぎるのではということだが、確かにそのとおりだと思っている。目標値を設定するときには過去5年間の実績を調べ、その平均を出してそれよりも高い値を設定することになっている。低い値や現状の値にすると達成

は可能だが、それだと成長しないので実績よりも高い値で、頑張れば届くのではないかという数値を目標にしている。

今の目標値をつくるときは、実績に基づいてかなり頑張れば年間で 1550 件で
きるのではないかと、そこまでできたらすごいねということで設定したが実際
にやってみるとなかなか難しく、それで目標を大きく下回っているという状況
である。

今年度内に新たな中期目標を設定する必要があるが、目標値の適正化を図るよう
うしっかり考えていきたいと思っている。

委員)十分に設定値を検討いただきたいと思う。

非常にセミナーの質が素晴らしい。高い質をもっているので、件数も大事だが
今やられているセミナーの質が素晴らしいので、設定値をよく考えていただきたい。

この中で興味があるのは、生の植物を作っているところの資料。貴重な活動を
されているが5カ年計画のところにはない。いろいろなところの植物を緊急避難
的に作られていると聞いているので、そういう実績をこういう場に出しても
らったらと思っている。

博物館) 植物栽培施設はジーンファームと言いい、ジーンファームを活用した事業をジーンバンク事業といっている。ジーンバンク事業もいろいろ成果が出ているが、今回は時間の関係上ご紹介が難しく資料には載せていないが、今後資料に盛り込む方向で検討したい。

議長) まだ質問もあろうかと思うが、今後に向けての話も結構出ているので、次の「令和5年度ひとはくの主な事業」について説明いただいた後、合わせて質疑を行いたいと思う。

－ 令和5年度主な事業の説明 －

議長) 令和5年度主な事業についての説明をいただいた。それに対する質問、また先ほどの報告等への意見、質問等でも結構なのでお願いします。

委員) 中期目標の2つ目の担い手の育成という分野で、登録者数や連携活動グループの登録数が数値だけみると低いという報告があったが、数値が右肩上がりに増えていくことが本当に重要なのか。本当に重要なことは他にあるのではないかと思った。今年度、私のところの学生が卒論のテーマで、小学校の自然

体験学習で子どもたちが学ぶ内容によってどのように違っていくのかを調査した。結論としては、学校だけでやるプログラムと技術や知識のある市民団体やボランティアの方がきちんと教えるプログラムとで、子どもたちの感想文の内容が全く違った。多様性であったり、深みが明らかに違うことが結果として出た。それは社会教育の力だと思った。学校教育で体験できないようなことを社会教育がカバーする。それができるのは人博のような社会教育施設や人博と連携する担い手の方、連携グループの方たちだと思う。こういった活動をきちんと評価していただきたいと思う。単に数値が伸びるだけでなく、本当に意味のあることをきちんと評価していただけるような目標を今後検討して欲しいと思った。

議長）今の発言に関して、連携活動グループの登録数が平成 30 年度から少ないのが気になっていて、先ほどの説明の中で手続き云々というのがあったが、わかっていたらもう解消してもよさそうに感じた。事業の実施数とか件数とかアウトリーチ活動とかが結構増えているのに、なかなかこれが増えてないというのは、個人としては参加するけれど、組織としてやっていくというそこまでステップアップするのはなかなか大変なのかなという印象を受けた。

だから先ほどの話ではないけれど、少し組み合わせを考えて、今もあるのかわからないけれど、学社融合という学校教育と社会教育の融合、そういうことも含めて考えると組織拡大できるのではないかと思った。これから指標を検討されるということなので、あとは地域的に、どこでそういう団体ができていてどこにできていないか、ということも含めて検討されるといいのではと感じた。

委員) 第4期の中期目標の最終年度ということで、これから新しい指標が検討されていくのかなと思うが、数値目標が出てきて数字でグラフを表すのは非常にわかりやすいという半面、内容とか質の部分が数字として出てこないことがあるのかなと思った。例えば、新しい収蔵庫ができました、それをこれからどう活用するのか。活用の中身の部分とか、開館以来もしかすると更新されていない展示物があると思うが、そういうものに関して更新されなくても評価数値として出てこないという課題もあるのではないか。そういったことも含めて何らかの評価指標が作れたらいいのかな、と資料を拝見して感じた。

自治体でも、個々のインフラ整備とか一つの指標だけではなく、全体として幸福度のようなものを指標とする自治体もあると聞いているので、人博を利用したことによって、抽象的だけれどもどれだけの来館した子どもさんとか保護者の方がったのが測れるようなものがあればいいなと思った。

それから年度毎に、今年はこれだよという何か人博としての重点目標という
か、今年度はこれで勝負するんだというものをどんと出すと、何か面白そうな
ことをやっているから行ってみようかなと思うのではないか。私も昔、子ども
を連れて来たが最近なかなか足が遠のいていることもあるので、今年はこれに
力を入れてやっていますというのを、どんと出してくれば、面白そうだから
行ってみようかなという気持ちになると思った。

最後に、「ひとはくイン・ハイスクール」事業をしていただいて大変ありがた
いと思っている。ただタイミングがある。たまたまそれにマッチするような課
題研究を持っている生徒がいればこのタイミングで質問しようと思うが、なか
なかそのタイミングが合わないといけないので、例えば、理科室などに「人博は
いつでもこういう質問について受け付けています」というポスターのようなも
のがあれば、生徒がこういうテーマを勉強したいんだという時に、担当の先生
が、それなら人博のこれを見て、というようなアドバイスができるのかなと。
そういう意味で、今やっていますというより、いつでもこんなこういうことを
やっているよと、学校に掲示できるようなものがあればいいのにと考えた。ま
た、高校の課題研究等で先生が困っていることもあるので、引き続きお力を貸
していただければありがたい。

委員) 昨年の秋にコレクションナリウムができ、人博が 30 周年の時に、ちょうどフラワータウンができて 40 周年ということで合わせて使わせていただき、地域の方々、あるいは市役所の職員でいろいろなイベントをさせていただき、非常に良かったと思っている。

人博の名前がどんどん知られていって、また三田に来ていただくというのは地元として非常に嬉しい。地域の方で、自然とか科学に関心を持っておられる方がたくさんおられる。いろいろな舞台で人博を活用したいという人がたくさんおられるので、市の方でもしっかりやらせてもらうので、ぜひそのような方と一緒に活動していただければと思っている。

委員) 人博の事業の中でイベントをたくさんされているが、もう少し上の世代のものがいいか。業界は違うが、30 年前というとちょうどサッカー、J リーグができた。それまでサッカー選手になりたいという子どもはいなかった。J リーグができて目標ができ、ヨーロッパで活躍する選手が出てきて、みんな日本代表になる、ヨーロッパで活躍するってなってきた。そういう大きな目標をもって、各世代を育てていく。J リーグができて、小学校選抜、中学校選抜、高校選抜、各世代ごとに何を教えるかを決めて、常に更新していって、今ワールドカップに毎回出られると。私が子どもの頃には夢でしたからね。そういう

ふうになるように、子どもたちが科学者を目指せるようないろいろなプログラムを作ってもらえたらありがたい。

委員) これからの計画だと思うが、令和5年度の事業で、「ユニバーサルデー」というのがすごくいいなと見ていた。「ユニバーサル展示コーナーの充実」や「ハンズオン展示の拡充」とか書いてあるが、具体的にはどういうことをやろうというのか教えていただきたいのと、未訪問園にお声がけをするというのがあったが、特別支援学校の子どもたちにもお声がけをする計画があるのか教えていただきたい。

博物館) 「ユニバーサルデー」については、ハテナボックスと言って、ボックスに標本などを入れて、手だけを入れて触って当てるといようなものを作ろうと考えている。

特別支援学校については、「障害者対象の特注セミナーの実施」と書いているが、特注セミナーになっているが特別支援学校の方にもぜひご利用くださいとわかるように掲示している。それが今6点ほどあって、来られた時に活用していただければと設定している。

委員) 実際にはどういう感じで来られているのか。盲学校やろう学校の子どもたちが年に何回来られているのか。

博物館) 今年度、実際に来られているのは、神戸市の盲学校の生徒、他にも肢体不自由の方や知的障害の方も来られている。実際には特注セミナーを受けていただくにあたって、先方の先生方とどのような内容でやるか、どこまでやるか、体験的なことが中心なのでできるかどうか、ということを事前に打合せしてやっている。

例としては、神戸市の盲学校の生徒が、コーヒーの焙煎でガスバーナーを使ってフライパンの上にコーヒー豆を置いて実際に焙煎していく体験をしたことがある。

それ以外でも特別支援学校が来館されるケースもあるので、こちらの方からこのようなセミナーも可能ですといったお声がけをさせていただいて、館内に滞在される時間とうまく合えば体験していただいている。

委員) 今日はたくさんのいろいろな企画を知ることができてありがたい。小中義務籍の者として感想を言うと、小中の子どもたちは調べ学習を総合的学習の時間を使ってやっていて、タブレットを1台ずつもっているので調べるのも大

変早い。できあがったレポートも大変素晴らしくて、将来、学者になれるんじゃないかなと。ただ残念なことに実体験が伴っていないことがたくさんある。私が住んでいる三木市は田舎の部分もあるし、町の部分もある。当然、身近に教科書もたくさんあるが意外と知らないことが多い。ネットではよく理解しているけれども実体験が伴っていないので、実際の自然を相手にしてそれが教科書になるよう我々も気づけてやっているが、学習指導要領の中の限られた時間になかなか外に出ていくことができない。

そういう中でアウトリーチはすごくいいと思う。全て教えていただくのではなくて、歯車を最初に回すきっかけを作っていただけたら、あとは子どもたちが自分たちの力で興味持って学んでいくのではないかと思うので、アウトリーチ事業の充実をしていただければありがたい。

ただ一つ懸念ごとは、地域とか周りからの期待や要望が大きすぎると事業は広がるばかりで疲弊してしまう。ぜひ、スクラップ&ビルドで絞っていただいて、お疲れが出ないようによろしくお願いいたします。

委員）なかなか人博の認知度が上がらないというお話があって、6割ぐらいの人が初めて来られたという回答があった。

ホームページや SNS で発信されていたり、このようなパンフレットなど様々なものが作られている。自分たちから情報を取りに行こうとしないと情報にアクセスできないとも思っている。もし今後、自分たちがアクセスしに行かなくてもみんなの目にふれるような施策のようなものをお考えであればお聞かせ願いたい。

博物館) キャラバンに行ったとき、子どもたちに館に来てくれたらシールがもらえるプレゼント引換券を渡している。これは結構いい策で、みんな家に帰ってきて、保護者がホームページで調べて来てくれる。アウトリーチに行った学校では、直後に親子連れで訪ねてくれる。

高速のサービスエリアに行ったこともあるが、知らなかった人がこんなところもあったのかと反応してくれる。他にも少し違ったやり方があるのではないかとことだが従来のやり方でまだ回りきれていないのところもあるので、今までの方法でよいと思っている。

委員) 今日は充実した内容で非常に勉強になった。

重点目標5の情報発信のところで意見も出ていたが、最近、例えばインスタ、ツイッター、フェイスブックなどで発信はされているのか。もしされているのならお聞かせいただきたい。

博物館）ツイッターやフェイスブックで発信している。それ以外にもブログの形で発信している。館内でやっているイベントとかを発信するツールを持っている。特にツイッターについては、生涯学習課で日々のイベントであったり、企画展などの情報発信を行っている。またフェイスブックでは、研究員がそれぞれの活動とか研究の中の取り組みを発信している。ツイッターとフェイスブックで役割を分けている。

委員）人博の活動で参考にさせていただいたのが、アウトリーチ活動。人博のキャラバンは、県立の博物館として先進的で、当館も昨年と今年、ひょうご五国歴史文化キャラバンを実施した。その時にキャラバンの意義を肌で感じる事ができた。出かけることの意義だが、他方で、入館者数で言えば予想以上の参加があるというまでには至っていない。

そこで前者を評価して続けるか、後者を考え慎重になるか二つの意見が生まれている。この悩みは人博のキャラバンにもあると思うが、その点、先進館として

どう理解しておられるか、教えていただきたい。

博物館）人博が「ゆめはく」を導入したときの第一の目的は、人博を訪問するのが困難な僻地にも出かけようということで、小さな公民館や小学校などもターゲットにした。廃校が近い小学校などに集中的にキャラバンした年もあった。

一方、ビジター数を増やすために、「ひとはくアピールアウトリーチ」と位置付け、普段、人博に来られないような方々が集まる大規模なイベントや観光施設などに、子どもに喜ばれるプログラムで出かけている。前者は、人博の事業として無料で、後者は先方のリクエストもあるので有料で行っている。

その他、観光施設などに1か月といった長期間展示をさせてもらうパターンもあるが、観光施設でのプログラム・展示はコロナ禍で大幅に減っている。

次年度以降は、今年度策定した将来ビジョンにもあるように、「地域伴走型」

「自然体験施設との連携」など、ビジター数よりも内容や先方との関係性を重視したアウトリーチを、「ひとはくアピールアウトリーチ」とともに推進しようとして計画している。

研究員には、さまざまなワークスタイル、こだわりもあるので、一筋縄では行かないが、以上のような方向性で進みたい。

議長)最後に、今年は「これで」というようなご意見もあったが、重点目標の中で、シンクタンク機能の強化として地域創生を強化するというのが謳われている。今、大阪万博 2025 に向けて、「ひょうごフィールドパビリオン」という SDGs に関わるいろいろな取り組みをやろうとしている。

たまたま関係する人と話をする機会があって、ひとはくのシンクタンク機能に期待されていて、特に来年再来年、たぶんお考えがありうまく連携していけるような方向性があるのではないかと考えている。